大学部活動の運営課題解決に向けて～「人が育つ部活動」～

1210548　三好彬弘

指導教員　土屋 哲

研究背景

現代社会は家族、友人、プロジェクトチーム、企業、国家、国際機関、など多種多様な集団が存在しており、その連関で成り立っている。大学はそのうちの一つであり、大学における部活動（サークルも含む）も同様に集団の一つであるといえる。本学は「人が育つ大学」というモットーに基づいた大学づくりを行っている。私は本学のこの理念を知ってから、大学の部活動も「人が育つ部活動」であってほしいと考えてきた。

研究目的

本研究は、「人が育つ」集団について整理し、対象の部活動を分析し考察することで、大学部活動を「人が育つ部活動」として成立させる要素を明らかにすることを目的とした。

研究方法

組織制度設計やコミュニティデザインに関する文献を調査し、「人が育つ」集団について整理する。その後、高知工科大学弓道部を対象に 4 年間（2017 年 4 月～2020 年 3 月）の集計データをもとに、部員の競技力や正規練習参加率、自主練習量と規則の厳しさの関連性を分析し、それらの関連性について考察する。

分析結果

・競技力と規則の厳しさの間に相関関係は見られなかった。
・正規練習参加率と規則の厳しさの間に相関関係は見られなかった。
・自主練習量と規則の厳しさの間には相関がみられた。

考察・結論

部内の規則の厳しさが部員の自発的な練習量に影響を与えている可能性、部員の主体性を喚起しているという点で、部員の多くが自発的な練習を行う環境は、部員が能動的に「育つ」環境と似通った要素を持っている可能性が示唆された。今後の課題として、適切なシステムの設定、環境の整備のために、部内の制度や規則がどのように変化したのかを整理し、規則の厳しさ以外の成員の行動に影響を与える要素の調査・分析と作成する。システム・整備する環境に必要な要素を明らかにすることが必要である。また、優秀な指導者の招聘と成員個人が尊重される環境整備を取り入れることについても検証が必要であると考える。